

ダムの効果事例について②

平成 29 年九州北部豪雨における寺内ダムの事例

寺内ダムは、福岡県朝倉市、一級河川筑後川水系佐田川にある重力式コンクリートダムです。
平成 29 年 7 月 5 日から 7 月 6 日にかけての九州北部豪雨災害をもたらした豪雨により佐田川の上流域で大規模な出水が発生しました。寺内ダムには、これまでの最大となる流入量約 60.8m³/s が流入しました。
寺内ダムの洪水調節によって、最大流入時には約 99%を貯留し、放流量を約 10.0m³/s に調節し、下流河川の水位低減を図り、ダムから下流約 8km の金丸橋地点は避難判断水位程度に水位を抑え浸水被害を防止しました。

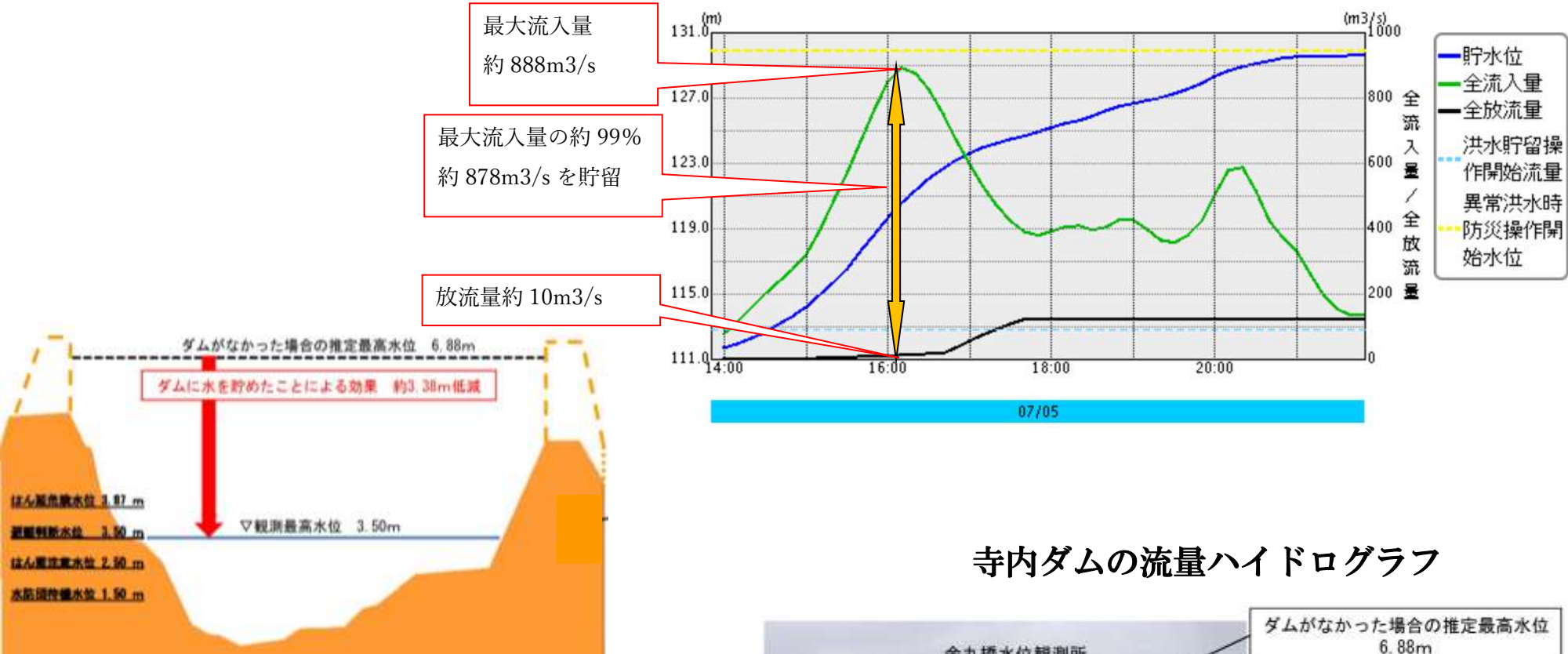
寺内ダム(福岡県)



- ・型式: ロックフィルダム
- ・河川: 筑後川水系佐田川
- ・堤高: 83m
- ・流域面積: 51km²
- ・総貯水容量: 1,800万m³



寺内ダム位置図



寺内ダムの流量ハイドログラフ

寺内ダムによる水位低減効果（金丸橋地点）
金丸橋の水位は、仮にダムがなかった場合、今回の最高水位より約 3.38m 水位が高く 6.88m となり、越水していたと推測されます。

